

〈隷書〉

九衢車馬傳佳句
萬戸鶯花接勝遊

井之上南岳書

井之上南岳先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課題は一人一点のみとする)

半折作品は各課題ごとに横／＼に一枚ずつたんで提出ください。

〈楷書〉

九衢車馬傳佳句
萬戸鶯花接勝遊

吉田成美書

吉田成美先生書

□ 九衢の車馬佳句を伝え 万戸の鶯花勝遊に接す (馮宿)

次号予告「鶯花兩月閑中度 琴酒三春夢裏消」

〈行書〉

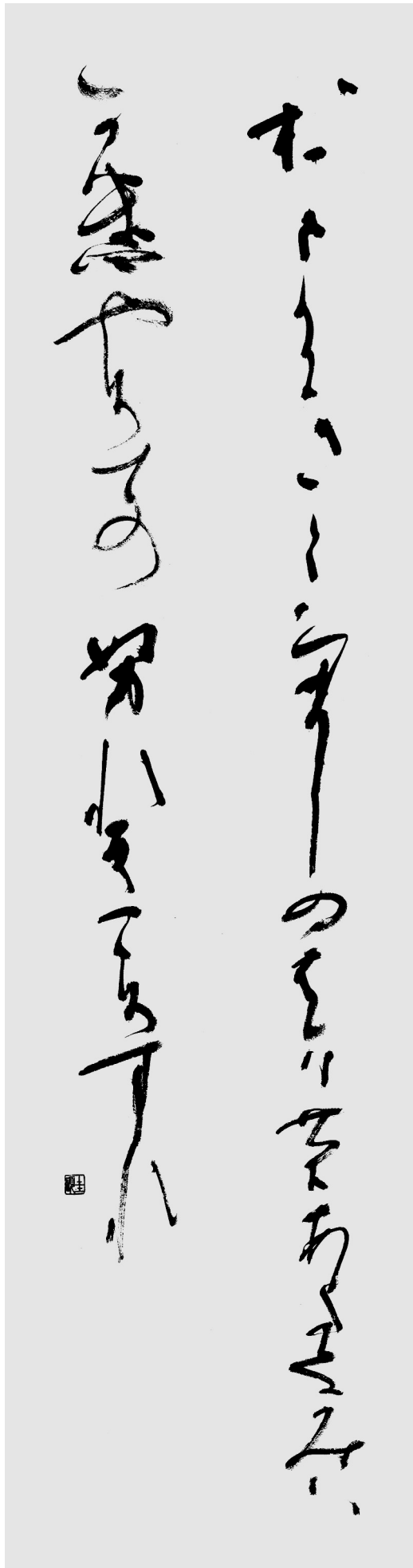
山本飛雲先生書



▽大通りに往来する車や馬は早くもよき詩句を伝え、多くの家の人は鶯花の時に逢って愉快的遊びをする。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ おとる^にきく 多^た可^かしの者^は万^ま農 あ多^たなみ^は八 可^か遣^け四^しやそての 努^ぬれもこそすれ
音にきく たかしの浜の あた波は かけしや袖の ぬれもこそすれ

△百人一首七十二▽

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

清原大龍先生臨

無對會之事
傲外來
庭面縛二千餘人

▽争坐位文稿

無對會之事傲外來庭面縛二千餘人

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田成堂先生書

風が雪に雪葉南へ鳥が梢を渡り
萬境人をも詩を吐かむ

□「雪白く積みり」 高村光太郎の詩 風なきに 雪蕭々と鳴って梢を渡り 萬境人をして 詩を吐かしむ。

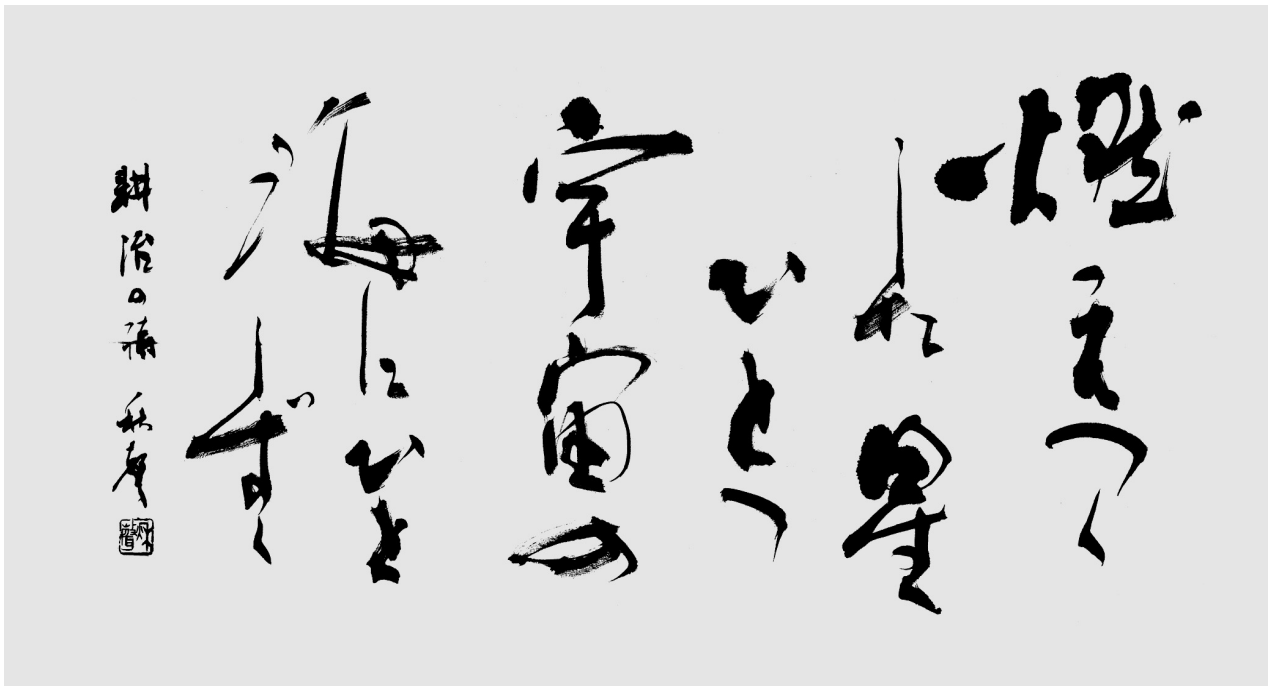
《手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折 $\frac{1}{2}$ 横のみ） — 2月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

《手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。》



小 畠 秋 聲 先生書

□「星の

こもりうた」
高畑耕治の詩

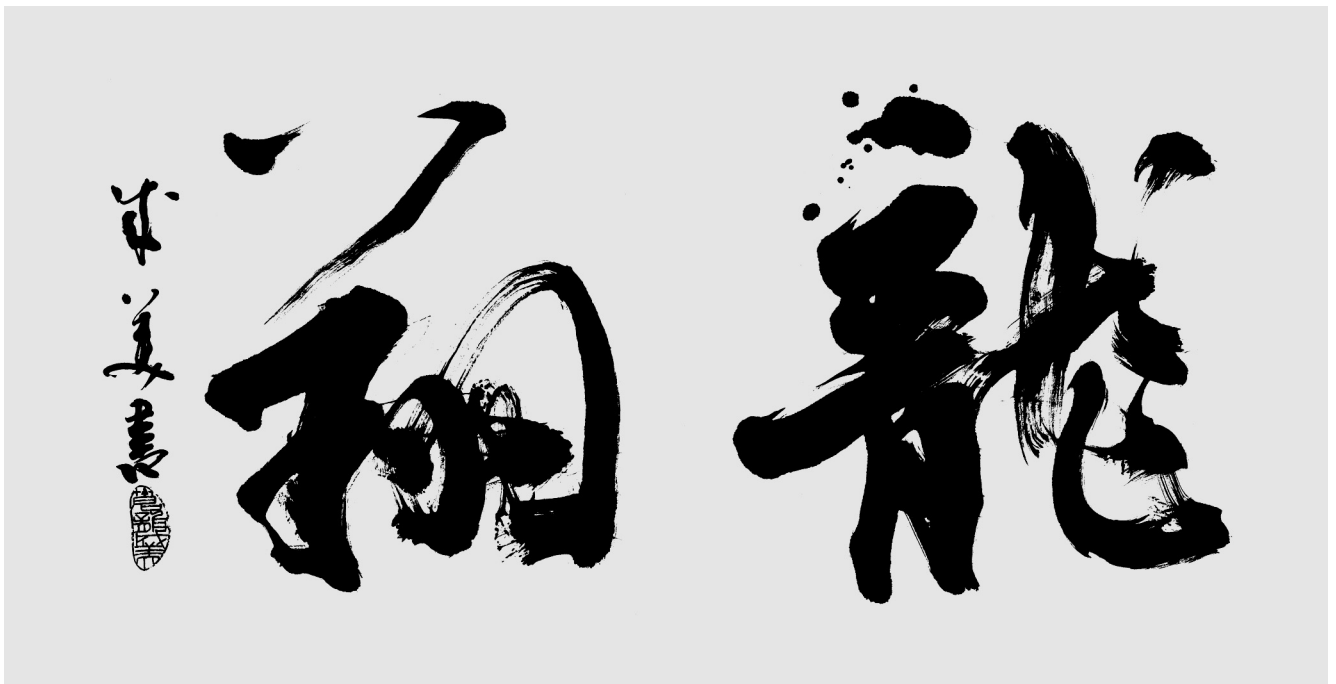
燃えつくした

星ひとつ

宇宙の海に

ひとつく

行の高低に変
化をつけて、
明るい作品作
りをしましよ
う。ひらがな
が多いので、
思い切って大
小の変化を。



吉 田 成 美 先生書

□「龍翔」

（りゅうしょう）

龍が雄志を抱
き、空を翔る
さま。龍のよ
うに意気盛ん
なこと。

毎月の月例の
審査・年賀状
書きなどで、
「あつ」とい
う間のお正月で
した。
会員のみなさ
まも健康で有
意義な年にな
りますよう、
頑張りましょ
う。

※半折 $\frac{1}{2}$ 横

の出品票

は作品の

左下に貼

って提出

下さい。

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 浮生定分有り (唐・杜甫「飛仙閣」)
人生は人それぞれに定めがある。



次号予告「寒梅著花未」

吉田成美先生書

半紙規定参考手本 — 2月末日締切 —

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 浮生定分有り (唐・杜甫「飛仙閣」)
人生は人それぞれに定めがある。



次号予告「寒梅著花未」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

□ 卽色明心 色に即して心を明らかにす (「碧巖録」六十)
事物をよく観察し、それによって自分の心を明らかにする。

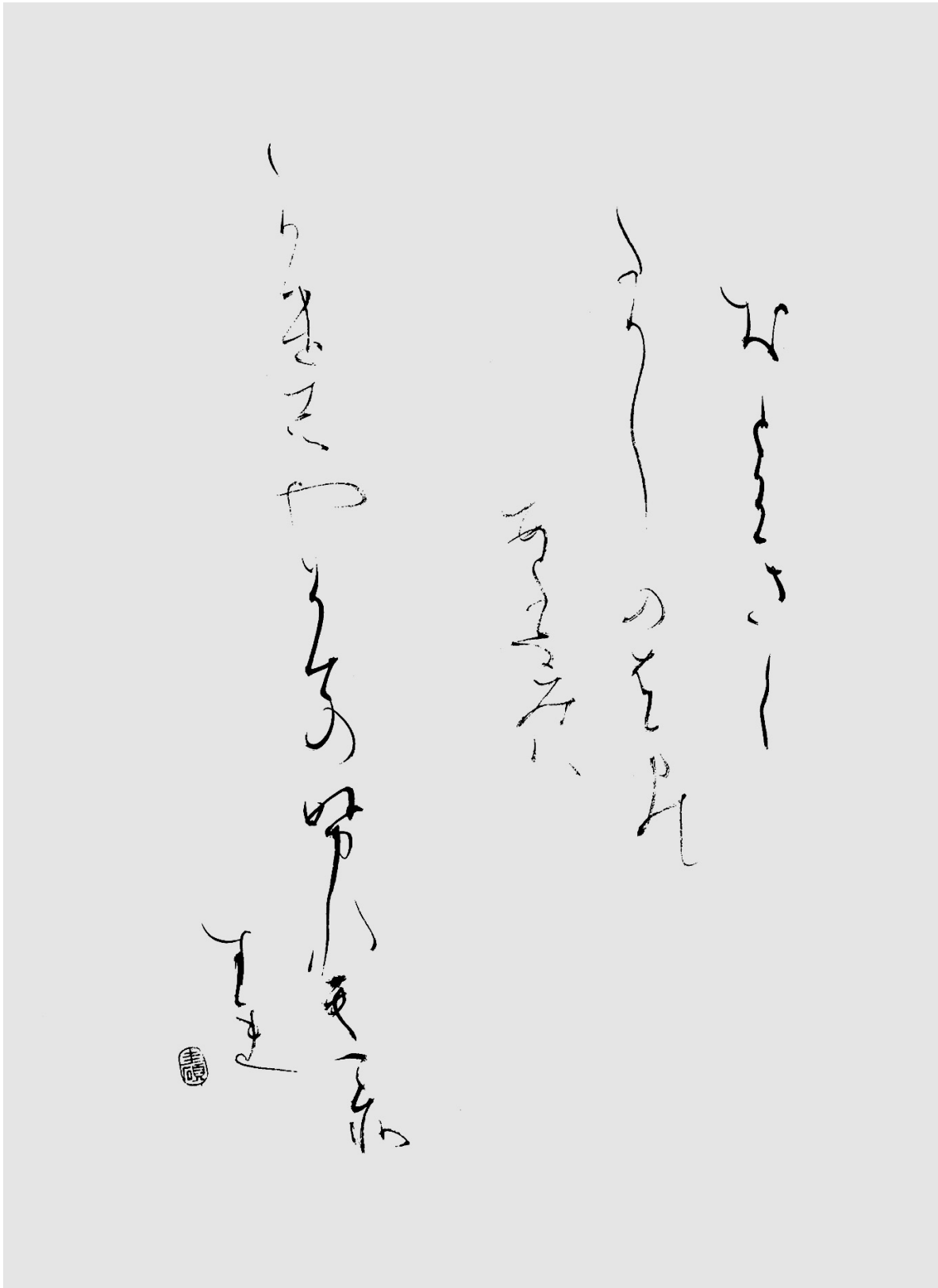


半紙随意参考手本 — 2月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

音にきく たかしの浜の あた波は かけしや袖の ぬれもこそすれ



□ おとる^にきく 多^た可^かしの者^は力^ま能 あ^あ多^たな^なみ^み八^は 可^か遣^け志^しやそ^そて^ての 努^ぬれもこ^こそ^そす^す連^れ

舟尾圭碩先生書

半紙随意参考手本 — 2月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

室生犀星の句 こどもらや 墨の手あらふ 梅の花

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)



西谷芝蘭先生書

半紙随意（臨書）参考手本 — 2月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽

横画は垂平に、縦画は垂直に、波磔はゆつたりと書きましょう。



「無對」

渡邊大嶽先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

姓
号

常務	役員	参与	部局
相談役	会長	嘱託	課長
代表	社長	補佐	係班
理事	専務	取締	主任

△実用書▽

役員 部長
会長 課長
社長 係班
専務 主任
常務 参与
相談役 嘱託
代表 補佐
理事 取締

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

食事の準備をする時手を忙しく
動かしながら頭の中では次の作業や
料理の組み合わせ時間配分器などと
フルに回転していますこの楽しい時間を
いつまでも続けたいものです
絃子

食事の準備をする時 手を忙しく動かしながら頭の中では次の作業や 料理の組み合わせ 時間
配分 器などとフルに回転しています この楽しい時間をいつまでも続けたいものです 絃子

大坪桂子先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書▽

書譜

過ぐーやすみぐーだが、今日は立春、
春の便りが聞こえてきますね。
昨日、毎年恒例の柳田神社節分大祭
を訪れました。口を通って参拝すると、
福が来るといふ、日本一の「おたふく面」や、
「益」と「耕」をかけて置かれる、超特大
の「福耕」など、見どころばかりです。
遠くの旅行もよいですが、今年は地元の
町にも訪れてみたいと思います。

野のある便箋に書いてみよう。

△ 26 cm × 18 cm ▽

紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵頭白慧先生書

(この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。)

流れる星

小学 4 年

美しい心

小学 3 年

せつぶん

小学 2 年

おに

ようねん・小学 1 年

飛躍の年

中学 2・3 年

出発の時

中学 1 年

新たな決意

小学 6 年

進む勇気

小学 5 年

坂元紫香先生書

△条幅 1/4 四尺画仙紙半折 1/4 : 68 cm × 17・5 cm ▽

ようねん・小学一年

次号予告「はる」

おに

□ “ハライ” “ハネ” “ドメ” のちがいに気をつけて、ていねいに書きましょう。

小学二年

次号予告「二」

ぶせ
んつ

□ “せ” は二画目と三画目の書き始めの位置に気をつけましょう。濁点は、ていねいに。

坂 元 紫 香 先 生 書

小学三年

次号予告「虫」

美し
い心

□ 平仮名は懐を広くし、漢字は点画の筆使い（“ハライ” “ぞり” “ハネ”）に気をつけて書こう。

小学四年

次号予告「平和」

流星
るれ

□ 文字の大きさに注意し、行の中心や文字の空間に気をつけ、明るく伸びやかに書こう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学 五年

次号予告「近づく春」

進 勇
気 本

□「進」は「へん」と「つくり」の位置に注意し、「勇気」はたて長に字形をとりましょう。

小学 六年

次号予告「旅立ちの朝」

決 意

□「決」は最終画の右払いを伸び伸びと。「意」は字形をや、たて長にし、五画目を長めに。

秋 永 春 霞 先 生 書

中学 一年

次号予告「春風万里」(行書)

出 発

□「出」は一画目を強く、や、台形を保ち、「発」は筆順に気をつけ、「ハライ」を伸びやかに。

中学二・三年

次号予告「万物生光輝」(行書)

飛 躍

□筆順に注意し、各文字の形に気をつけながら点画の流れを意識し、伸びやかに書こう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学二年

①とめる
す 寸 本 一 十 中 出 出
頭 (とう) 草原 (そうげん)

段 級	ス	あ	お	に
氏 名	ー	ま	っ	出
	ホ	り	て	て
	は	の	、	い
	、	ひ	広	き
	二	つ	い	ま
	十	じ	草	し
	頭	を	原	た

ようねん・小学一年

①は左と右のなをせんに
つける
②はねる
③はろう
リ 月 月 月
糸車 (いとくるま)
④いちばん ながく かく

段 級	月	ん	ば	を
氏 名	の	は	ん	
		、	に	つ
	き	、	、	お
	れ	糸	車	か
	い	で	で	み
	な	いた	糸	さ

坂元紫香先生書

小学四年

①とめる
く 糸 組 組 組
ノ 八 分 分
②はねる

段 級	二	わ	く	味
氏 名	字	せ	語	の
	以	で	と	分
	上	き	い	か
	の	た	訓	る
	漢	言	で	も
	字	葉	読	の
	の	を	む	が
	組	じ	と	あ
	み	ゅ	意	る
	合			

小学三年

①とめる
サ 華 華 華 華
葉 一 口 口 口 口 口 口

段 級	生	を	言	え	生
氏 名	き	「	い	や	き
	て	こ	回	教	て
	い	と	し	え	い
	く	わ	で	を	く
	づ	ざ	表	短	づ
	え	い	した	い	え
	で	う	もの	言	で
	の			葉	の
	ち			や	ち

坂元紫香先生書

小 学 六 年

イ 糸 紵 終	【◎はらう】	段 級	
		氏 名	
Ⅰ 戸 威 感	【◎四角の方向に注意】	に、どんなことがあったでしょう。	
Ⅱ 戸 威 感	【◎点をあてず、左にはねる】	感じたこと、考えたこと。六年間	
		こと、体験したこと、出会った人、	
		あなたは何を思いますか。学んだ	
		こと、体験したこと、出会った人、	
		感じたこと、考えたこと。六年間	
		に、どんなことがあったでしょう。	

小 畠 秋 聲 先 生 書

小学五年

[illegible]

一 般 (A)

近年は、「本命」や「義理」のほか、自分への「褒美」^{ほめもの}が「勢」力拡大の「寒暑に負けず」に「頑張る身」を自ら「ねぎらう」。それも「いい春を待つ」一日によく似合う。

小 畠 秋 聲 先 生 書

中学

[illegible]